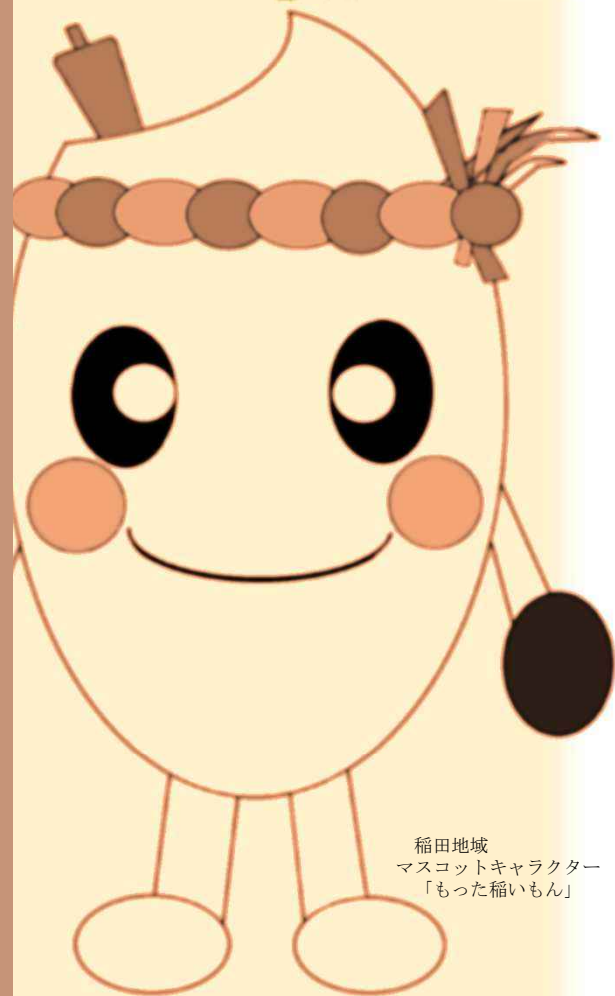


稲田地区の魅力
たくさん見つけました！

稲田地区の宝カード

－ 分類 －

- ① ~ ⑤ 人物
- ① ~ ⑤ 芸術文化
- ① ~ ③ 史跡
- ① ~ ⑤ 風景
- ① ~ ③ 信仰・祭礼
- ① ~ ⑧ 暮らし



稲田地域
マスコットキャラクター
「もった稲いもん」

稲田コミュニティセンター
Instagram



@INADA_SUKAGAWA

稲田
地区の宝カード



— 分類 —

① ~ ⑤ 人物

地区にゆかりのある人物及び関連する事柄
(分野、時代は問わない。)

1

稲田学園音楽部

稲田学園の音楽部は、現在17名と少ない人数ながら、吹奏楽のコンクールで4年連続全国大会に出場するという、素晴らしい成績を残しています。令和4年には、全国大会1位とも言われる文部科学大臣賞を受賞しました。

作成者：稲田のちーちゃん



ここがポイント！

現在、17名と少ない楽器編成ではありますが、1人2役3役と器用にこなし、素晴らしい演奏を聞かせてくれます。令和7年度は11月に2つの全国大会に出場しました。

2

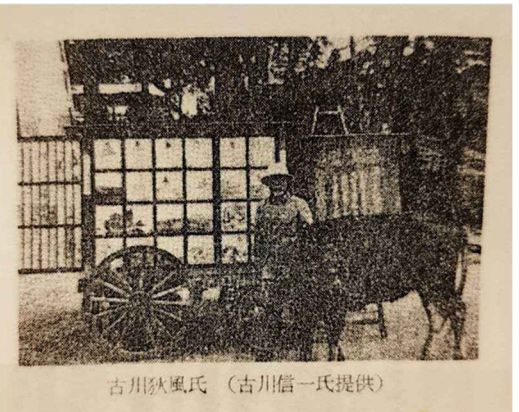
画家 古川狄風

古川狄風という画家は、明治15年6月1日に今の須賀川市松塚の深谷家に生まれ、古川家に養子に出た。福島師範簡易科を卒業した後、当時の須賀川町などで教壇に16年立ち、その後満州に渡り、現地の様子を画帖に残した。帰国後、水墨水彩画の制作に励み、福島県内各地で画会を催した。狄風の画風は自由奔放、独自の表現を試み、バラエティー豊富だった。作品はほとんど水墨淡彩であった。画号の『狄風』は中国の異民族『北狄』から名付けたのではないかとされている。

ここがポイント！

須賀川市で有名な画家といえば、銅版画家の垂欧堂田善だけかと思っていたが、この稲田地区の松塚生まれの画家がいたとは！松塚の誇りである。

作成者：稲田のちーちゃん



古川狄風氏（古川信一氏提供）

3 学校前のおばちゃんの自慢

稲田小学校、稲田中学校の時に本当は買い食いをしてはダメなのですが、学校前のおばちゃん「やす子さん」のお店でお菓子を買ったりをしたりして楽しかったです。NHKののど自慢コンテストにも出ました。やす子さんのこと、自慢できます。



作成者：薄井樹恵子

4

子どもたちのために！！子ども達の
居場所作りをしている
「IPPO-IPPO」

2022年3月から、子育て中のママさん3人ではじめた、子ども達の居場所づくりをしている、IPPO-IPPO。「地域の子どもを地域で育む」をモットーに、稲田地域を拠点に活動しています。

月に1回程度、放課後や夏休みなどに稲田コミュニティセンターで、子ども達のおやつや食事の提供、ゲームや工作、その時期にあった行事活動など、毎回工夫を凝らしながら、子ども達が楽しめる事を提供していらっしやいます。

もうすぐ4年目になる今では、すっかり子どもたちが安心でき、楽しめる場所になっています。

作成者：めぐみ



ここがポイント！

今後も、子どもたちのために頑張るIPPO-IPPOに注目です。

5

稲田学園松明作り協力会

須賀川市の伝統行事「松明あかし」。秋の夜に赤々と燃えるさまは圧巻ですが、その裏では沢山の方の支援があって成り立っています。その中の1人「有馬秀明さん」は、稲田学園が初めて松明あかしに参加した、平成15年に稲田公民館の館長をされており、稲田学園の参加にご尽力くださいました。そこから今日まで、稲田学園の松明製作の中心を担い、稲田だけでなく他の学校の松明製作も行うなど、絶対に欠かせない人物となっています。

「松明あかし=(イコール)有馬さん」と言っても過言ではありません。



ここがポイント！

すごくまじめな方ですが、お話すると面白いおちゃめな紳士です！

作成者：めぐみ

稲田地区の宝カード



— 分類 —

① ~ ⑤ 芸術・文化

【民話・伝説】

地区に伝わる民話や伝説及びそれにまつわる
(由来する)場所やもの

【文学】

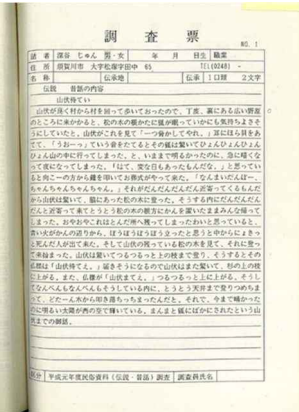
句碑、文学碑など

【美術工芸】

関下人形などの美術工芸品

1

稲田の昔話1 「山伏待てい」



(あらすじ)
山伏が村から村を回って歩いていた時、広い野原の松の木の根元に、きつねが気持ちよさそうに眠っていた。山伏は驚かしてやろうと、きつねの耳にほら貝をあて吹いた。驚いたきつねは山の中に逃げていった。すると今まで明るかったのに、急に夜のように暗くなった。見ると、向こうから鐘を叩きながら、お葬式の列がやって来た。だんだん山伏に近づいてくるので、山伏は驚き脇にあった松の木に登った。とうとう、お葬式の列は山伏が登った松の木の前に来て、根元に棺桶を置いてみんな帰ってしまっただ。すると、棺桶の周りから青い火が灯ると、死人が出てきて、山伏が登っている木に登り始めた。山伏に届きそうになったので、山伏はさらに上に登ると「山伏待て！」と追いかけてくる。そうこうしているうちに、ついに松の木のとっぺんまで上り詰めた山伏は、木からたたき落ちた。すると、今まで暗かったのに、明るい太陽が出ていた。山伏はまんまときつねにだまされた。というお話。

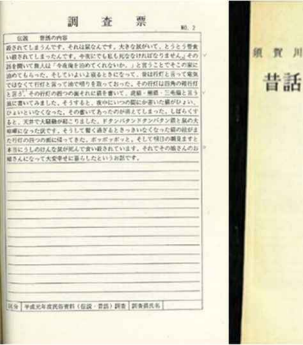
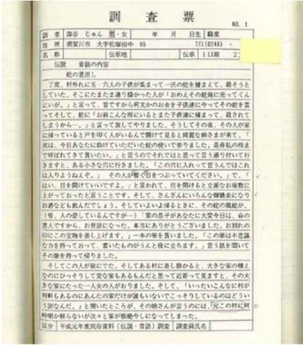
ここがポイント！

山伏(やまぶし)とは・・・山野に寝起きし、修行する僧のこと。

作成者：めぐみ

2

稲田の昔話2 「蛇の恩返し」



(あらすじ)
村外れに5、6人の子どもが集まって一匹の蛇を捕まえて、殺そうとしていた。そこを通った男が「その蛇を売ってくれ。」と、子どもたちに何文かのお金を渡し、蛇を放してやった。するとその夜、蛇を助けた男の家に、蛇の使いが来た。「ぜひ、私と一緒に来てください。」というので、使いの後をついていくと、小さな穴に着いた。「この穴には入れない。」と男が言うと、「では、目をつぶっててください。」と使いが言い、「目を開けていいですよ。」と言われ目を開けたと立派なお座敷に上がっていた。いろいろご馳走になり、お酒も飲んだ。そして帰る時に、助けた蛇の親蛇が、「お別れの印にこの宝物を差し上げます。この筆は不思議な力を持っていて、書いたものがとても役に立ちます。」と、一本の筆をくれ、それを男は持ち帰った。ある時男が旅に出た。ある村に差し掛かると、大きな家の構えなのにひっそりとした家があった。近寄ると、女が1人で住んでいた。聞けば、家に大きなねずみがいて、皆食い殺されてしまった。今夜にでも、女も食い殺されるという。そこで、男はこの家に泊めてもらうことにした。夜寝るときに、行灯の四面に、蛇にもらった筆で猫の絵を描いた。虎猫・熊猫・三毛猫という風に。すると、夜中に書いた猫が飛び出し、天井でねずみと猫の大喧嘩になった。間もなく猫は行灯に帰ってきた。翌朝見ると、牛の腱ほどのねずみが死んでいた。助けた男はその家の婿となり幸せに暮らした。というお話。

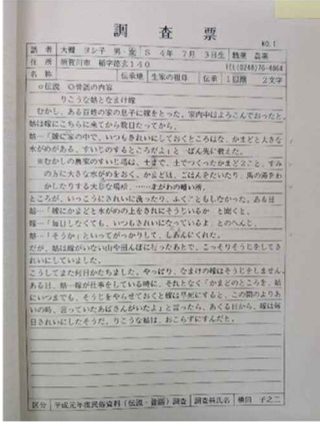
ここがポイント！

行灯(あんどん)・木や竹の骨組みに和紙を張り、内部に灯火(ろうそくや電球など)を置いて使用する日本の伝統的な照明器具。

作成者：めぐみ

3

稲田の昔話3 「りこうな姑となまけ嫁①」



(あらすじ)
ある百姓の家の息子が嫁をもらった。姑は嫁が来て数日経った頃、家の中でいつもきれいにしておくところは、かまどと大きな水がめがある、炊事場であると教えた。しかし、嫁は掃除をする様子ではなかった。ある日、姑が嫁にかまどと水がめを掃除しているかと聞いた。すると、嫁はいつもきれいにしていると答えた。実は嫁が山や田に行っている間に、姑がきれいに掃除していた。いつまで経っても嫁は掃除をしないので、姑が嫁に、姑にいつまでもかまどの掃除をさせていると、嫁は早死にするという話を聞いたと伝えた。すると、翌日から嫁は毎日きれいに掃除をするようになったという話。

作成者：めぐみ

4

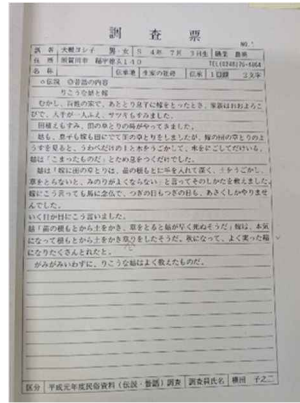
稲田の昔話4 「りこうな姑となまけ嫁②」

(あらすじ)

ある百姓の家の息子が嫁をもらった。人手が1人増え家族は喜んだ。

田植えも済み、田の草取りの時期になった。姑も息子も嫁も田んぼに出て草取りをしたが、嫁を見ると、うわべの土と水を動かし、水を濁しているだけだった。「田の草取りは、苗の根もとに手を入れ、深く土を動かし草をとらないと、稲のみのりがよくなる。」と姑は嫁にやり方を教えた。しかし、嫁は次の日も次の日も、姑が教えてくれたように草取りを行わなかった。ある日姑は、「苗の根もとから土をかき、草取りをすると姑が早く死ぬそうだ。」そう教えると嫁は、本気になって草取りをした。

秋になってよく実った稲になり沢山お米がとれたそうだ。



作成者：めぐみ

5

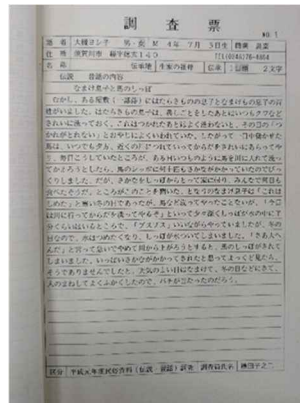
稲田の昔話5 「なまけ息子と馬のしっぽ」

(あらすじ)

むかし、ある百姓の屋敷に働き者の息子となまけ者の息子がいた。働き者の息子は、畑仕事をした後、いつもくわなどをきれいに洗っていた。「疲れたあとはよく洗わないと、その日の疲れがとれない」と、父親によくいわれていた。一日中働かせた馬も、夕方、近くの川に連れて行って体を毎日きれいに洗ってやっていた。

ある日、いつものように馬を川に入れ体を洗って帰ろうとしたら、馬のしっぽに何十匹もの魚がかかっていた。しっぽから魚をとり、家に持ち帰り何日も魚を食べることができた。このことを聞いた、となりのなまけ者息子は「これはしめた！」と、寒い冬の日馬など洗ったことがなかったが、馬を川に連れていき、しっぽが深く半分くらい入るところまでいき、洗っていた。しかし冬の水はつめたく、しっぽが凍ってしまった。「たいへんだ。」急いで川からあげようとしたら、馬のしっぽが切れてしまった。いっぱい魚がかかって切れたかと思い、よく見たがそうではなかった。

人のまねをしてよく深くしたのでばちがあたったのだろう。



作成者：めぐみ

稲田地区の宝カード



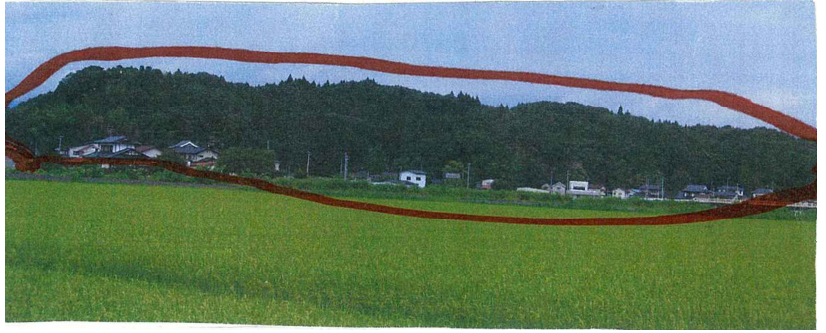
— 分類 —

① ~ ③ 史跡

古墳や昔の集落跡、城跡、館跡(やかたあと)など
(公園のうち「城跡」として挙げているものも含む)

1

稲村城



稲村御所とともに鎌倉、南北朝時代を語るには大事な場所である。稲村城の領主について諸説あるが「鎌倉殿の十三人」で活躍した二階堂行政の長男である行村系が領地を収めていた可能性が高いと思われる。二階堂というどうしても松明あかしで有名な須賀川二階堂のイメージが強いが稲村には現在町内にある普応寺などもあり、北朝方の拠点として須賀川二階堂より早く隆盛を極めていた。現在の稲地区の世帯数は八十五であるが当時三百世帯を有していたと言われている。

多賀城というと現在も大きな市であるが当時初代奥州管領の吉良貞家は一時南朝方に撃破され敗れた貞家は多賀城から兵を引き連れ逃走したさが稲村城でありました。

稲村城も南朝方の白河小峰の領主結城親朝が支配したとも考えられますが長くは続きませんでした。先に出た普応寺は親朝が父宗広を供養するために造ったものとされています。

一時期土器などの盗掘もあり、散策路の整備などもなされなくなり地元の人々も城の存在を知らない人も多くなってきているので看板などの設置により城があったことについてPRしてほしい。

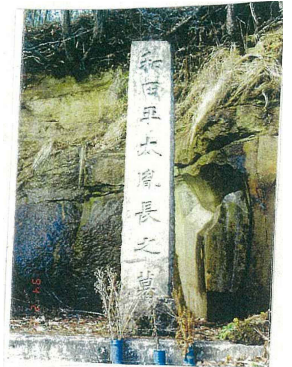
ここがポイント！

近くには、稲村御所や和田平太胤長の板碑などもあり600年前の歴史を研究するのにおすすめの場所である。

作成者：稲村座 座長 熊田 正幸

2

和田 平太胤長の板碑



鎌倉時代に二代將軍頼家の遺児の千寿丸を擁立して將軍実朝を廃する計画をした和田の反乱を首謀した一人であった胤長は計画に失敗したため、鎌倉幕府の重要人物であった二階堂行村の所領であって稲村に配流されたと伝えられています。和田合戦直後に胤長はこの地で殺害されたため、後に地元の人々が供養のため建てたのが平太仏であり、昭和三年三月に顕彰碑が建立されました。稲村の隣にある鏡石町深内には鏡沼という場所があり胤長の妻が娘の遺骨とともに、夫を追ってきましたが既になき者となったことを知り、沼に身を投げたとの伝説も残っています。

ここがポイント！

和田平太胤長の墓所は国道脇の岩が露出した斜面にあり、大きな岩も供養墓なのでしよう字が刻まれています。流人にしては地域の人々の思いもあり、かなり立派な墓です。現在も地元老人クラブにより清掃され綺麗になっています。

作成者：稲村座 座長 熊田 正幸

3

稲村御所



稲村御所館跡 (南から)

私の住んでいる稲地区は南北朝時代に北朝方が東北地方を支配する拠点として選ばれました。

皆さんご承知のように御所とは京都御所に代表されるように天皇やそれに準ずる高位の貴人の住居を指し全国的に見ても数は多くありません。稲村御所には鎌倉公方の足利氏満の子の満貞が派遣されておりかなり重要視されていたことがわかる。

御所は南北に500m、東西に300mの台地に造られ自然の要塞となっており、今でも土塁や堀跡が残っています。

特にわが熊田一族は御所の館があった土地や周辺の土地のほとんどを所有しており、私の家稲字徳玄は稲村公方が下向する際に一緒に連れてきた医師の名前が地名となっている。このようなことを考えると確証はないが熊田一族の祖先は稲村殿に仕えていたのではないかと個人的には思っている。

ここがポイント！

御所後は、高台にあり周りに植えられている桜がとても美しい。
御所内にある神社、仏閣も素晴らしい。
歴史的に見ても国の史跡に準じてもおかしくないと思われるので史跡の指定を受けてほしい。

作成者：稲村座 座長 熊田 正幸

稲田地区の宝カード



— 分類 —

① ~ ⑤ 風景

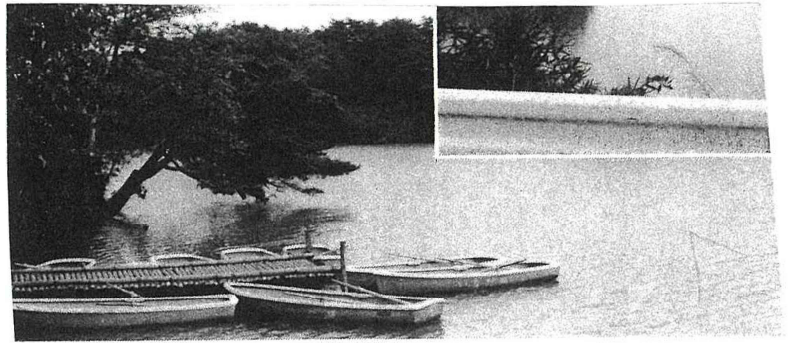
地区の特徴的な景色
（「○○からの眺め」「▲▲から見える景色」など。
昔の風景も含む）

1

稲田湖(稲大池)

稲田湖は、稲地区の灌漑用水として大正初期に造られ面積は約7ヘクタール、貯水量は13万 m^3 で稲川が常に注がれており、湧水するところは見たことがない。

昭和40年から50年頃は児童遊具施設やボートなどもあったので小学校の遠足や若者のデートスポットとして多くの人々が訪れ賑わっていた。



稲田湖（松塚）

大正初期の築造で、稲田湖として親しまれ、春の桜夏のボート、秋の紅葉といこいの場となった。

ここがポイント！

春の桜、秋の紅葉が湖面に映し出されとても綺麗である。

作成者：稲村座 座長 熊田 正幸

2

稲田コミュニティセンターから見える景色

2020年10月に稲田コミュニティセンターが新しくなり5年が経ちました。駐車場から見える景色は、本当にきれいです。朝、昼、晩、春、夏、秋、冬…さまざまに変化し、穏やかに稲田地域を映してくれています。

田畑、山々、空どれをとっても最高です。この景色をひとりじめしていいの？という気持ちになります。ぜひ皆さんに見てほしいです。

ここがポイント！

夏の夕方の景色は、空全体がきれいなあかね色で、最高です。

作成者：めぐみ



3

突如出現!! “江花川に菜の花が咲いた!!”

令和元年10月の台風第19号に伴う降雨は、阿武隈川流域全域にわたり平均253mmの雨が激しく降り、戦後最大であった昭和61年（8.5洪水）や平成の大改修の契機となった平成10年

（8.27洪水）を上回る雨量が観測された記録的な降雨により流域全域に甚大な被害をもたらしました。被災後、直轄河川大規模災害関連事業（約1,000億円）として、令和元年度～令和10年度にかけて、阿武隈川上流域（福島県内）では、河道掘削 約220万 m^3 、築堤 約400m 橋梁架替 2橋、遊水地整備 2箇所等が行われています

（国土交通省 福島河川国道事務所公表資料から抜粋）。



県道 289 号 下松本鏡石停車場線の江花川に架かる布川橋から上流の風景（令和7年4月21日）

ここがポイント！

災害関連事業として、江花川（保土原地区）の河道掘削が2度行われました。工事後に写真のように、河川敷（堤防）一面に「菜の花畑」が出現しました。河道掘削により草木・堆積土砂を撤去したので、地中にあった種子が発芽したものと推測されます。不思議なことに、布川橋下流側は「菜の花」は咲きません。来年も咲けば是非見て下さい。

*この間、河道掘削が2度行われていますが、1度目は菜の花が見れたのは翌年のみでした。

作成者：深谷政憲（保土原在住）

4

古戸大池



慶長13年（1608年）会津領の時代で、蒲生秀行氏が城主のとき古戸大池が造られたと言われてます。

このときに水門の管理として保土原から5軒ほど移住し、その末裔が現在の古戸区の住民となっております。

その時代の動きについて…慶長5年（1600年）に関ヶ原の役があり、徳川が天下をとり、江戸幕府が開かれました。豊臣側について敗れた上杉景勝は120万石の会津城から米沢30万石に減じ移封されました。その会津城に宇都宮城主蒲生秀行が60万石で再び入封し、須賀川を領し、蒲生源左衛門が領主となりました。慶長7年（1602年）須賀川城最後の城主であった二階堂後室：大乘院は佐竹家を頼り、秋田へ行く途中、須賀川に立ち寄り病気のため長祿寺において亡くなりました。

古戸大池が造られた同じ時期に造られたと言われているため池は、間米池・土橋池（吉見根）、山寺池（西川）、麻畑の池（小倉）、大槻の池（塩田）があります。

古戸大池の概要…集水面積313ヘクタール、受益面積44ヘクタール、満水面積4.9ヘクタール、長さ350メートル、総貯水量100,000立方メートル（10万トン）、昭和52年～53年：県営圃場整備事業により改修

ここがポイント！

稲田地域では一番古く大きな池となっています。池の東側の敷地には桜の木が多く植栽されており、春の開花時期には、地域住民の憩いの場として親しまれています。

作成者：有馬秀明

5

自慢したい景色/ 田園風景と新幹線



岩瀨神社から西側方向に約300mほど移動すると、圃場整備を行い整然とした田園風景が広がりその中に南北に伸びる新幹線の橋脚が見えてきます。両側がトンネルとなっているため、車窓から見える風景はまるでトンネルに入る前で見えていた風景のフラッシュバックのような感じを受け、不思議な感覚になると思います。

特に夕日が沈む中に、光を帯びた新幹線が通過するのを見るとき、今まで時間が止まったような静寂な空間が打ち消され、時間の動きと確かな人々の躍動する息づかいを肌で感じることができると思います。

ここがポイント！

夕陽の風景の中に新幹線が通過するときがお勧めです。

作成者：有馬秀明

稲田地区の宝カード



－ 分類 －

① ～ ③ 信仰・祭礼

【伝統芸能】

自奉楽、神楽など

【祭り・伝統行事】

神社、仏閣で行われている祭礼(例大祭など)
地域で行われている伝統的な行事や年中行事
など

【石造物】

石仏や板碑など(句碑・文学碑は除く)

【社寺】

神社、寺院(お堂や仏堂を含む)

1

保土原神社の狛犬

須賀川市保土原地区にある保土原神社は、文久2年に社殿が建立された。昭和6年には、一對の狛犬が奉納され、この狛犬がとても素晴らしいと全国的に評価されています。

この狛犬は石工の小林和平方の作品で、『飛翔獅子』と呼ばれ、雲の上に乗って足を跳ね上げている姿が大きな特徴です。そして、子供の狛犬を3匹連れているのも特徴の一つです。和平方には3人の子供がいたが、早くに亡くしてしまったことから、我が子を大切に思う気持ちを込めているのではないかとされています。

小林和平方の作品は、保土原神社をはじめ、石川町の石都々古和氣神社や古殿町の古殿八幡宮などで見ることができます。

作成者：稲田のちーちゃん



ここがポイント！

狛犬の大きさや躍動感、狛犬の顔が可愛い！！ぜひ皆さんの目で作品の良さを感じていただきたいです。

2

岩瀧神社

岩瀧神社はその当時、村社の春日神社と小社の神明神社があり、明治42年(1909)5月1日に官許を得て、12月21日「岩瀧神社」と改称しました。

寿永2年(1183)に有馬伊勢という人が南部(奈良)から春日大明神を迎え入れ祀ったことが始まりと言われており、その後、二階堂為氏が鎌倉から須賀川に入部した際、この神社が氏神であったため神社へ30石の領地を奉納するなど厚く信仰していたそうです。

岩瀧神社は「岩瀧館」の本丸と、北西部の一段低い平場には二の丸があったそうです。明治以前の社殿は壮大な建造物だったとも言われています。神社に行けば、建物の跡なども見ることができます。



ここがポイント！

ひっそり佇む神社と、そこにたどり着くまでの急で苔むした階段。

作成者：めぐみ

3

岩瀧館/岩瀧神社

(岩瀧館)

岩瀧館は、岩瀧字小仲井付近に建てられた城館です。岩瀧神社が祭られている場所に本丸が築かれ、他に二の丸があったと言われております。この館を建てたのは岩瀧氏と言われております。

岩瀧氏の名前が歴史上に現れるのは、永享10年(1438年)に室町幕府6代將軍の足利義教と鎌倉公方(幕府の下で関東や東北を支配する鎌倉府の長官)の足利持氏が対立した永享の乱で義教の勝利により、翌年、持氏は一緒に戦った稲村公方(稲字御所館にあった稲村御所の当主)の足利満貞とともに自害しました。この頃、既に岩瀧氏は現在の岩瀧に館を築いて当地を治めていたと考えられます。

その後、戦国時代になると、岩瀧氏は、当主の岩瀧紀伊守が二階堂氏に成敗され、勢力を失いました。このため、岩瀧館の城主も岩瀧氏から二階堂氏の重臣であった常松氏に代わっています。その後、須賀川城落城のとき二階堂氏の味方をしたため没落し、岩瀧館も使われなくなりました。

(神社の由緒と沿革)

寿永2年(1183年)有馬伊勢(岩瀧村神主有馬氏)が勧請したと言われています。文安年中二階堂氏が須賀川城主となると春日神社は氏神になり社領30石を奉納されました。岩瀧城主常松家鎮守として尊崇されておりました。明治以前の社殿は壮大なる建造物であったと伝えられており、仙台白石角田家(関根氏)が来て尊崇したこともあり、また、白河城主代々の奥方が尊崇しておりました。明治42年5月に春日神社と神明神社を合祀し、官許を得て岩瀧神社に改称されました。



ここがポイント！

鳥居をくぐり境内の石段をおよそ110段ほど登ると岩瀧神社の社殿が現れます。また、左側の奥には神明神社があり、深い歴史の流れを感じることができます。

作成者：有馬秀明

稲田地区の宝カード



－ 分類 －

① ~ ⑧ 暮らし

【食】

キュウリ、果物などの農産物。かっぱ麺などの特産品や料理。

(菓子店やラーメン店など食を提供、製作する店舗も含む)

【風習・風俗】

昔から伝わっている因習、しきたり、ならわし、暮らし方

【イベント】

新興の祭り、イベントなど(地区の文化祭など)

【商業施設】

スーパーなど(商店街も含む)

【公共施設】

公園や駅、小学校や幼稚園など

1

稲田学園校歌『HOME』

『Home』～須賀川市立小中一貫教育校
稲田学園愛唱歌～

作詞：岡本真夜
作曲：NAOTO
編曲：ただすけ

2018年4月に稲田小学校と稲田中学校が統合し、施設一体型の小中一貫校として稲田学園が開校した際に、愛唱歌として作られたのが『HOME』です。

作詞は『tomorrow』などで有名な岡本真夜さん、作曲はバイオリニストのNAOTOさんが手がけた曲です。

2021年に義務教育学校となり、『HOME』は愛唱歌から校歌になり、より子どもたちに親しまれる曲となりました。

作成者：稲田のちーちゃん

1 おはよう今日も 元気にいこう とひらぬけたら 新しい光
福巻をこえ 張くあぜ道 顔上げれば みんないるから
校舎にひびく 笑い声が 夢をつむいで 朝日をえがく
この道の向こういつでも この壁の向こう未来は
みんなの笑顔でいっぱい みんなの愛がここにある
手をつなごう Ah どんな日も
負けないよ あきらめない 二人じゃないからね
慰れないで いつもそばに 帰れる場所がある
やさしく 朝をい みんなの稲田学園

ここがポイント！

『やさしく 明るい みんなの稲田学園』
という歌詞がとても心に残ります。

稲田学園のホームページや、ウルトラFMでも須賀川市内の学校の校歌紹介で聞くことができます。ぜひ皆さんに聞いていただきたいです。

2

松塚図書館

むかしむかし、なんと松塚に図書館があったのです！その名も『私立松塚図書館』。明治39年に、当時稲田村松塚の古川祉良によって、日露戦争を記念して設立されました。観覧料無料で、主に地方の風俗改良や村内青少年の教養助長を目的とし、農休日や秋冬の夜間に閲覧する者が多かったそうです。

古川家の翁は松塚小学校で40年間教師を務め、退職後は自宅で夜間学校を開き、青少年の教育に情熱を注いだ。昭和3年に地方教育功労者として表彰され、松塚神社に頌徳碑が建てられた。

ここがポイント！

松塚で古川家の方々が地域の人のために、図書館を開いたり、夜間学校を開いたり、青少年の教育に情熱を注いでいたと知り、頭が下がる思いです。頌徳碑を探して、松塚神社にお詣りに行きたくくなりますね。



松塚図書館の標札と図書合番帳

作成者：稲田のちーちゃん

3

安積疏水・円筒分水 (泉田分土工)

私が小学生の頃(約30年前)には、見学学習の時に、安積疏水のルートを辿って学習したことがありました。猪苗代湖の水が稲田まで来ていることに感動しました。そして泉田の円筒分水を見て、重要な役割をするものがあることを知りました。我が家の中学生の娘たちは、円筒分水の場所さえ知らないの、稲田の子供たちに知ってほしいです。

ここがポイント！

まるい形で、水が真ん中から湧き上がって、10本に分かれて流れていく姿は、歴史を感じられます。



作成者：稲田のちーちゃん

4

須賀川市墓地公園

須賀川市稲地区にある墓地公園は、昭和53年に造成され23ヘクタールという広大な土地に約4400基の墓地が設置されており、春の多くの種類の桜、秋にはもみじなどの落葉樹の紅葉がとても素晴らしい大型の公営霊園である。

現在は、墓地はほとんど満杯となり樹木葬による埋葬も整備されている。



須賀川市墓地公園



ここがポイント！

起伏のあるウォーキングやグランドゴルフコースも整備されており一日楽しめる。

作成者：稲村座 座長 熊田 正幸

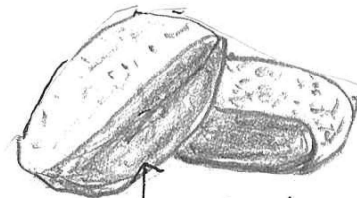
5

昔なつかしい味「稲村あんぱん」

稲地区には、全国的に有名な熊田パンの元祖ではないかともいわれているあんぱんを作っていた熊田商店と柳沼商店の2軒があり、そのあんぱんは、戦前から地元で愛される味として、地域住民から親しみを込めて「稲村あんぱん」と呼ばれていた。都会から帰郷した際は食べるのを楽しみにしていた人も多かった。あんこがぎっしり入って砂糖がいっぱいまぶされた昔なつかしい味であった。



どらりぱん



あんこがぎっしりの中

作成者：稲村座 座長 熊田 正幸

6

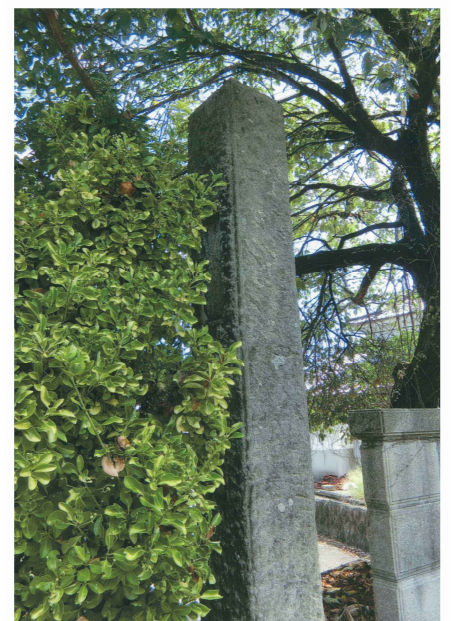
保土原小学校

子供の頃、保土原小学校に入学しました。

小学2年生の時に冬寒いのでストーブでお弁当を温めてもらいました。お弁当を食べる前に青柳先生がストーブにつまづいてみんなのお弁当を落としてしまいました。

そして、佐藤酒店の美智子さんの家からかぎせいのフルーツパンを買ってきてみんなにあげました。フルーツパンはそのとき20円でした。

作成者：薄井樹恵子



7

稲田地域マスコットキャラクター 「もった稲いもん」



稲田明るいまちづくりの会で所有している、稲田地域公式マスコットキャラクター「もった稲いもん」をご存じですか？
食ベ物を残す。捨てる。忘れ物や落し物を探さない。などなど世の中にあふれる、もったいない話は数々あります。
みんな、もっと物を大事にしようよ。「もったいな～～い!!!」
そんな思いを、体育振興会長の佐藤久美子さんが発案し、みなさんから愛されるキャラクターにしてくださったのが、「もった稲いもん」です。

稲田コミュニティセンターにもった稲いもんはいます！貸し出しもしています。さまざまところで活躍して、もった稲いもんを知ってほしいもーん。

ここがポイント！

お米の白いボディーにかわいいおめめ、ピンクの愛らしいほっぺ！！きゅうりの刀を背負ったみんなに愛されるキャラクターです。一度会ったら忘れられません。

作成者：めぐみ

8

古戸の大火

昭和33年4月10日は、わが古戸の地にとって最悪の日であった。その日は例年の乾燥期に加え、風速15mの強風下、14時15分突如出火。一瞬の間に27戸92棟が燃えわずかに数棟を残すに過ぎなかった。この時地元の手引きポンプはもとより四方から駆けつけてくれた30余台のポンプが全力を挙げて消火に努めたが、何等の甲斐もなかった。1年3か月の惨憺たる光景は今なお脳裏を去らないが、地域社会からの心からなる援助により、道路改修され、家屋は立派に復興したことは誠に感謝に堪えぬところである。



ここがポイント！

災害は忘れた頃に来るといふ諺を忘れることなく、わが子孫は前者の轍を踏まぬように相努めなければならない。

作成者：薄井樹恵子